



第1回竜雲舜虹苑 秋のふれあい祭り



苑長挨拶

平成30年11月4日(日)

秋晴れの爽やかな日に、開苑より夏に開催してきた竜雲舜虹苑 地域交流 夕涼み会を一新し、竜雲舜虹苑 秋のふれあい祭りを開催しました。

初めての開催とあって、職員一同、来場して頂く皆様に楽しんで頂けるよう、ひとつひとつ準備を進めてきました。当日は多くの方が来場され、どのイベント、ブースも大盛況で、あつという間に時間が経っていました。お帰りの際には「楽しかったよ」「この時期がいいね」と言って頂いたことで、ホッとしたとともに来年度への意欲が湧いてきました。

最後になりましたが、ボランティアの方々にもお手伝い頂き、無事秋のふれあい祭りを終えることができました。不手際もあったかと思いますが、今回の反省点を活かしながら、秋のふれあい祭りを続けていきたいと思っています。ご来場頂いた皆様、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。



川原 江美 苑長

元気でやつとる介護

元気で
やつとるよ!

今回は、香川町にお住まいの藤澤正子様を介護されている長男のお嫁さんの藤澤千代子様をご紹介します。突然、介護が必要な状態になったためお嫁さんも悩まれていましたが、娘さんやお孫さんのサポートもあり現在も在宅での介護を頑張っています。

介護支援専門員 秋友 史絵

いきなりの介護

私は48歳で祖母になり、それから18年間9人の孫育てをしてきました。9番目の孫も来年小学校に上がり保育所の迎えからやっと開放されると思いきや44年間同居している89歳の義母がいきなり足が痛いと訴え、病院を転々とした結果「大腿部骨折」という診断で手術は高齢なのでできない、もう歩く事もできません、車椅子ですと言われば突然の車椅子生活が始まりました。

今日の今日迄歩けていた人がまったく歩けない、何もできない、全ての事が遮断された義母の気持ちの整理と突然始まった介護、私も何からどうやつたらいいのかまったく分かりませんでした。又、そこに新たな問題が発生して動けなくなったり、認知症特有のお金の問題がでてきました。私以外の人と接する時はものすごく穏やかなのに、私の顔を見るとお金の追求が始まります。最初は病気だから仕方ないと自分に言い聞かせていたのですが、段々私の方も追い込まれていきました。

気持ち的に一番辛かったのは義母が66歳の時、義父と一緒に色々旅行を楽しみ、幸福な時を過ごしていたのに、どうして今、私の66歳の時、義母の介護、44年間の同居生活をえて、私の人生はなんだったんだろうという気持ちが心一杯になって落ち込んでいきました。これでは自分が「病気」になる、車椅子になった義母がかわいそうだから私が絶対に見るという気持ちが認知症の進行とともに薄らいでいく様になりました。将来私もこのようになるのだろうかと色々思えば思う程沈んでいきました。



義母、母、孫とお花見

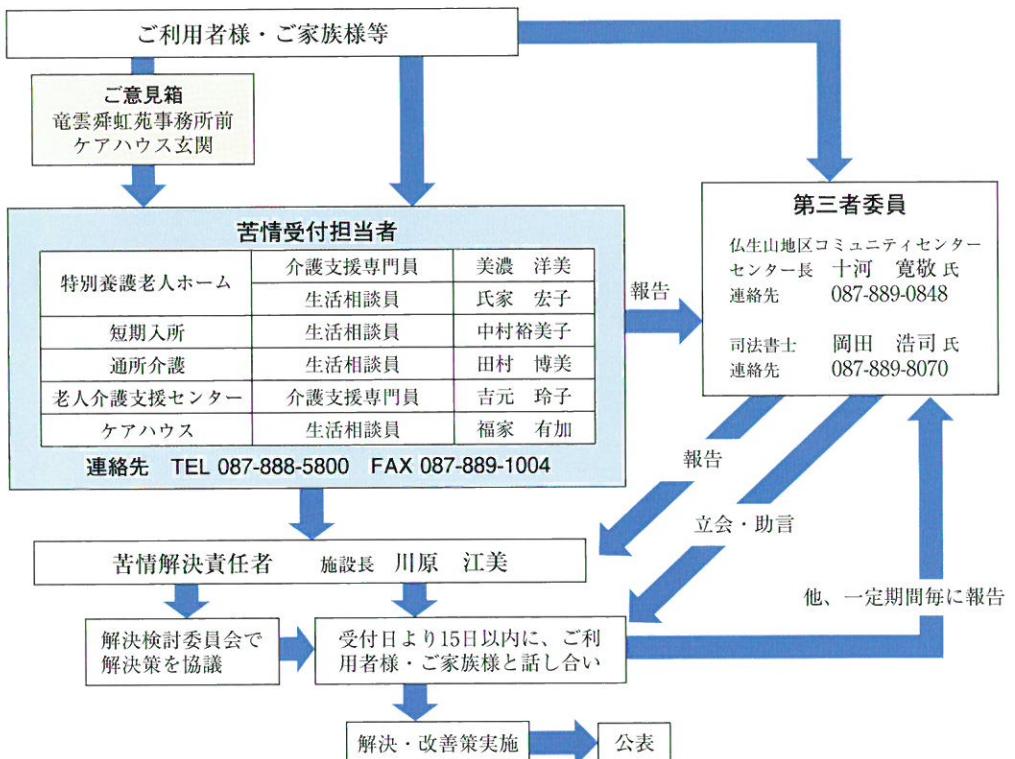


屋島へみんなで初詣

その時、仕事ばかりであまり見なかった主人が「もうプロに任そう」と秋友ケアマネジャーに助けて頂きました。現在は、デイサービス、ショートステイを利用しています。今迄44年間同居し確かに苦労した事の方が多かったのですが、つい最近も認知症と分かっているながらも言い合いになり、最後に私も義母も泣きながら義母が「娘より千代子さんがいいわ」と言った時、今迄の44年間が救われたような嬉しい気持ちになりました。

これからいつまで続くのか分からぬけれど認知症もあり進まず、残された時間、竜雲舜虹苑の職員の皆様に助けて頂いて、家族、孫、曾孫達に思われて義母が心穏やかな日々を過ごさせてもらえたと願っています。

長男嫁 藤澤 千代子



要望・苦情受け付けます

平成三十年（四月～十月）にお寄せ頂いた「要望・ご意見について報告致します。

サービスについての要望が二件ありました。今後も皆様のご要望・ご意見をお聞きし、真摯に受け止めサービスの向上に努めて参ります。

ご厚志ありがとうございました

平成三十年(四月)~十月

佐生山婦人会様
有限会社 リツツ様
中井裕子様
白水 悟様
藤本京子様
山田治江様
常博子様
四国医療福祉専門学校様
高松南高校様 7名

● 感 謝

| | |
|--------------------|-------|
| 株式会社 K.D.I様 | 久間葉局様 |
| 医療法人社団 修美会 | こすもす様 |
| 電雲メンタルクリニック様 | |
| 川設備様 | |
| 日赤奉仕団 仏生山分団 婦人会様 | |
| 上新町二丁目自治会様 | |
| 竜雲学園うしお会様 | |
| 多肥地区 民生委員児童委員協議会様 | |
| 仏生山地区 民生委員児童委員協議会様 | |
| 仏生山連合長生会様 | |
| 西高松グループ 松本義人様 | |
| 仏生山地区保健委員会・仏生山婦人会様 | |
| スマイルドッグ様 | |
| ボラえもん様 | |
| カナン保育園様 | |
| 瀬戸フィルハーモニー交響楽団様 | |
| 高松南高松ダンス部様 | |
| さぬき民族芸能保存会様 | |
| 讃岐高松龍雲太鼓保存会様 | |
| スッテブクラブ様 | |
| くにどう幼稚園様 | |
| 仏生山小学校様 | |
| 香川第一中学校様 | |

地域交流ホール 利用のご案内

地域交流ホールを皆様にご利用していただけます。自治会、子供会、会議、クラブ活動等、地域活動で会場にお困りの際は、[下記までご連絡下さい。](#)

担当：福家（TEL 888-5800）

- 費用：無料
●利用時間：9：00～19：00(要相談)



社会福社法人童雲学園 童雲爱叮苑

地域の福祉、
みんなで参加

- 特別養護老人ホーム
ショートステイサービス
デイサービス
老人介護支援センター
ケアハウス竜雲

〒761-8078 香川県高松市仏生山町甲 3100-2
TEL 087-888-5800 FAX 087-889-1004

除夜の鐘

お寺の一年の行事の締めくくりと言えば「除夜の鐘撞き」でしょう。

大晦日に放映される「ゆく年くる年」でも毎年何処かのお

寺の鐘楼が映し出され、鐘を撞く様子が中継されているよう

に大晦日の風物詩となっています。

皆さんご存知の浄土宗總本山知恩院の大鐘のように、大勢

の僧侶で撞くような鐘楼ではありませんが、当寺にも鐘楼が

あり、毎年大勢の参拝者で賑やかな年の瀬を過ごしています。

当寺近隣に三ヶ寺の寺院が存在しますが、どのお寺さんにも鐘楼がなく、除夜の鐘撞きなら法然寺へ、となっているようです。

毎年紅白歌合戦の勝敗を観ることなく、午後十一時四十五分から参拝者が撞き始めます。私は鐘楼の脇にいて撞き終わつた方に一々百八までの番号が書かれた散華（紙で作られた花びら）をお渡しします。この散華を集めておられる方が多くいらっしゃって、「去年の鐘つきは〇〇番目でしたよ」と法事の際にお聞かせ頂くこともあります。

百八番までの散華を渡し終わると、年始の行事「修正会（しゆ

しょうえ）」の準備をする為、本堂に入りますので、百八番以降は番号が書かれていない散華をお世話人さんが渡していきます。合計でだいたい百五十回くらいは鐘の音が近隣に響き渡っています。

松山市 法然寺 住職 岡本 好司

本当は鐘を撞く順番なんてどうでもいいのです。ただ、法然寺に除夜の鐘を撞きに行く一つの楽しみにして頂いたらいいかと思いつ始めた事です。

大切なことは、今年一年いろいろなことがあつたけれども、また鐘を撞きに来ることが出来た。という安堵感をひと時でも味わい、来る年に向けてまた踏み出して行く気持ちにさせてくれるきっかけとして鐘を撞く行為です。

私たちは、一年の間に怪我や病気に襲われ、時として家族との悲しい別れを経験することもあります。全く何の障礙もなく一年を過ごされる方がどれくらいいるでしょうか、不本意なことがあつたけれど、今年も除夜の鐘つきが出来た事への感謝とお蔭を頂いて、良きお年をお迎えください。

まだ、除夜の鐘撞きに行かれたことのないお方は、今年の大晦日はお近くのお寺にお参りされては如何ですか。

洪鐘偈（鐘を撞くとき最初にお唱えする偈文です）

願此鐘声超法界 鉄圓幽暗悉皆聞

（願わくはこの鐘の音が法界に響きわたり、この世界の一切衆生が三途の苦しみを離れて、極楽に生まれ、さとりの境地にいたることができますように）

ボランティア紹介

「おはようございます。」といつもさわやかな笑顔と挨拶で、利用者様を迎えて下さるリツツ美容室の美容師さん。舜虹苑が美容室の雰囲気に変わる瞬間です。

カットして頂いた後、利用者様は「けっこうになったの一」と笑顔で鏡に映る自分を眺めておられます。そして、ひ孫のような美容師さんとのやり取りは、利用者様にとって元気の源となっています。



「ボランティアカット」

(有)リツツ 土岐 桃世

舜虹苑さんにボランティアカットに行くようになったのは、平成14年、今から16年前になります。当時はチャリティーカットを開催し、その売上を募金するなどの活動をしていました。しかし、もっと地域社会に貢献できる、分かりやすく誰かのお役に立ちたい、美容師ならではの取り組みがしたいという思いから2ヶ月に1度のペースで舜虹苑さんにて、ボランティアカットをするようになりました。

車椅子に座ったままや、寝ていらっしゃる状態のままのお爺さんやお婆さんのカットは思っていた以上に難しく、スタッフと協力しながら四苦八苦しつつカットをしていました。普段だったらシャンプーをして、カットをして、ブローをして仕上げる、という一連の流れがありませんし、時にはじっと動かないでいることが難しい方もいらっしゃいますので、その度に試行錯誤しながら施術させていただいているです。

また、舜虹苑のスタッフさんが介護の仕事をされている場面を見ることもあり、大変なお仕事ではあるけれど、その中に人に喜んでもらえるというやりがいと魅力を感じました。私達も、その優しさや誠実さを見習い、普段のサロンワークに活かすべきだと思っていて、いつも勉強させていただいていることに感謝しております。

カットをし終わり、「すっきりしたよ、ありがとう」などの言葉を下さった時は本当に今日は来て良かったなあと思えます。また、「以前も私が切ったことがある！」という利用者さんにお会いすると、元気にされていたんだなあと嬉しくも思います。最近ではスタッフも増え、交代で参加となっているので、1人につき1年に1回参加できるかどうかですが、久しぶりに参加したスタッフからは、「やっぱりこういうボランティアはたまには参加せないかん。久しぶりで緊張したけど、喜んでくれたからほんまに楽しかったわ！」という声も聞かれます。

ボランティアカットを通じて、これからもスタッフの健全な心の育成に取り組み、自分たちの持つ技術で誰かが笑顔になり、幸せを感じてもらうことができるという体験ができればいいなと思っています。この活動をする機会を与えてくださった方皆様に、感謝いたします。そしてこれからもこの繋がりを大切にていきたいと思います。ありがとうございました。





目次

- 誌上法話 2
- 要望・苦情受け付けます／ご厚志 6
- 元気でやつとる介護 3
- ボランティア紹介 7
- 第1回秋のふれあい祭り 4・5
- 仏生山なら、よいトコなあ～ 8

仏生山なら、よいトコなあ～ VOL.19

今回は、仏生山町のわき外科クリニックです。
事務長脇潤也様、医療コーディネーター平岡龍様にお話を聞きました。

わき外科クリニックは昭和25年から開業されており、先代の脇正院長の時から69年目となります。現在は二代目の脇正志院長を中心に医療だけでなく、ケアマネジャー、介護福祉士、管理栄養士、ヘルパー等、生活に関する介護のサポートも充実しています。

脇院長は、患者様お一人お一人に誠実に向き合い、その人にとって何が大事か、職種関係なく情報を共有して職員皆でその人をサポートされています。

脇院長の息子様である潤也事務長は、「この仏生山町で地域に近い病院を目指す」をモットーに地域医療だけでなく介護との連携の大切さを伝える救世主としてご活躍されています。

平成3年に医療法人となり、7年前からは療養型のショートステイや家族様の負担軽減のためのレスパイト入院等を取り入れられました。潤也事務長からは、脇外科とありますが、外科だけではありません。どんな症状でもまずは医院にきて相談してみてください。こんな症状で

行っても良いのかなと悩んだら相談してみてください。と、安心できるお言葉を頂きました。



平岡龍様と脇潤也様

医療法人社団 わき外科クリニック

内科・外科・胃腸科・皮膚泌尿器科・肛門科
高松市仏生山町甲460-8
☎087-888-5123



また、今回の取材で2階の喫茶室にお邪魔させて頂きました。こちらでは喫茶だけでなく管理栄養士による食事療法を行っています。潤也事務長は、この喫茶室が、元気になるような美味しい食事を提供するとともに、地域の皆様が気軽に立ち寄って頂けるコミュニケーションの場となって欲しいと願っています。

最後に潤也事務長より、今後も地域の方々にもっとわき外科クリニックを知って頂き、地域医療の入口として何でも相談してほしい、医療も介護も職種も関係無く横の繋がり、関係作りを今後も大切にしていきたいですと熱く語って下さいました。



(レポーター 福家有加)

